

偶数月月に1回「抱樸館を支える会」会員の方にお届けしています

抱樸館を支える会 会報 2025 10月 vol.73

2025年10月1日発行：抱樸館を支える会

抱樸館を卒業しても…

寄り添って 一緒に伴走をしていきます

抱樸館を卒業しても、それで終わりではありません。自立し、仕事に就いても、うまくいかなかったり、つまづくこともあるでしょう。そんな時は相談に乗ったり、一緒に動いてサポートを続けます。

ここでの出会いは、一生涯のつきあい。
新しい生活がひとりぼっちにならないように、抱樸館は「ホーム」として支援しています。



カフェさんぽみち

卒業生同士がカフェの場で再会したり
入居者が新たに関係が結べる場所です
地域の方の参加也大歓迎！



花見会・紅葉狩り

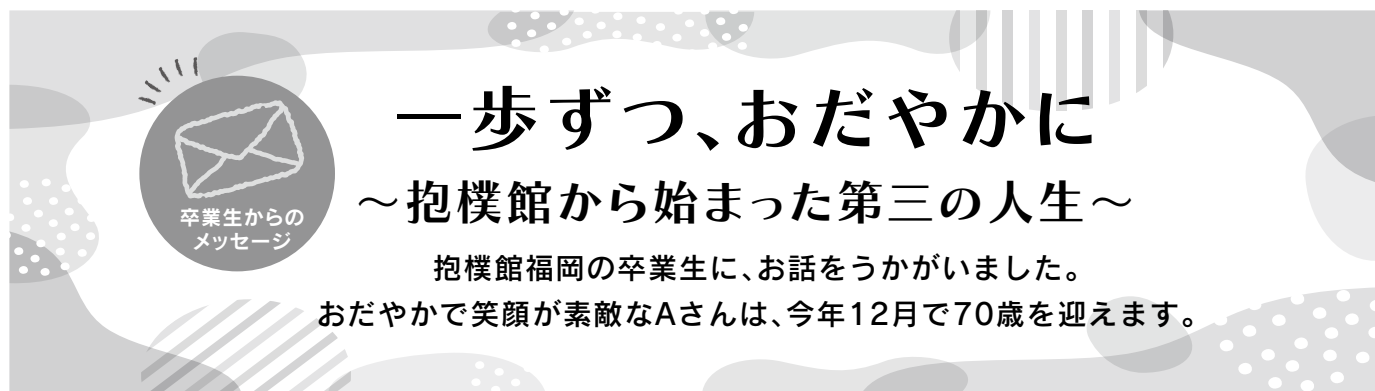
年2回（春・秋）、入居者・卒業生・
スタッフが集まり、見慣れた顔、久しぶりの顔、
新たな顔を確認し合う楽しい場となります



居場所カフェ 在(aru)

卒業生にとっても
地域の方にとっても
ホッとできる「居場所」です





荒んだ家庭と児童養護施設での少年時代

1955年、福岡市で5人兄弟の長男として生まれたAさん。父親は競艇、母親はパチンコに夢中で、家庭は荒れていました。12歳の時に父親が家を出て、やがて母親も姿を消しました。両親と、住む家を失った兄弟は、寺に保護された後、児童養護施設で育つことになります。

中学卒業後は博多区の畳屋に住み込みで働きながら、夜は定時制高校に通い、4年かけて卒業しました。働きながら学ぶ生活は決して楽ではなかったけれど、16歳から博多祇園山笠に参加し、地域との関わりを持っていました。

突然の転機

48歳の時、34年間勤めた畳屋が、店主の急逝により廃業。住まいと仕事の両方を失ったAさんは、警備の仕事を見つけてアパート暮らしを始めました。しかし、不安定な収入の中で家賃が払えなくなり、路上生活を送ることになりました。

2004年、公園で野宿していたところを建設業の社員にスカウトされ、そこで12年間真面目に勤めます。しかし、人間関係のストレスやお酒の影響もあり、63歳で退職。再び路上生活へ戻ることに。

抱樸館福岡との出会い、そして再出発

2018年、路上生活中に、全国展開するアルコール依存症支援のNPO法人に声をかけられました。知り合いに顔を合わせたくないとの理由から、そのNPO法人の長崎にある施設に入所します。しかしそこでは生活保護費の大半が「寄付」として徴収され、自由のない日々が続きます。話すことが苦手なAさんにとって、毎日の集会や当番が負担となり、やがて福岡へ戻る決意を固めました。

福岡に戻ったのは2022年1月。凍えるような寒さと

空腹に耐えかねたAさんは、交番に助けを求め、区役所を通じてようやく「抱樸館福岡」への入居が叶いました。

入居して良かったことは、「良い担当者に恵まれたことと、病院で歯や目など体の隅々まで診てもらったこと。大変助かった」と笑顔で話します。——ここにいれば何かあっても安心できる。抱樸館福岡を卒業後は、すぐ近くのアパートで一人暮らしを始めました。

抱樸館はAさんにとって卒業後も「安心できる場所」。家の鍵を預けたり、困った時など多方面での支えです。「しばらく仲間の顔を見ないと、どうしているかなって思っただけ」。職員や仲間との交流もまた心の支えになっています。

過去を抱きしめ、おだやかな今

朝は4時半に起きて散歩、週6日は自転車で抱樸館の卒業生達にボランティアで弁当を届けています。「雨の日も休まずカッパを着て配達します」と誇らしげに語るAさん。パズルや将棋が好きで、毎日が穏やかに過ぎていきます。お酒も今では缶ビールを一日1本だけ。「全部お酒に使ってしまった生活」は過去の話。

兄弟とは時折電話で連絡を取り合っています。「おふくろは交通事故で63歳、親父は47歳で亡くなった。親の歳を超えたから、もういつ死んでもいい」と冗談まじりに話すその声には、どこか達観とおだやかさがにじみます。

Aさんは、誰かに支えられながら、自分も誰かを支える存在となっています。かつての路上生活や孤独の記憶は、今の静かな暮らしと小さな役割に意味を与えているようです。



抱樸館福岡の「退居時アンケート」より

抱樸館福岡では、退居時に“新しい生活を始めるみなさまへ”アンケートをお願いしています。この1年間に退居した方のアンケートを一部紹介します。



■ 20代の女性(2024年11月退居)

ここに来た時は不安でいっぱいだったけど、職員の皆さん、そして入居者の皆さんが優しくしてくださったおかげですぐにこの環境に慣れました。資格が取れていい経験になったとすごく思っています。別れもあったけどいい出会いもあり、毎日が充実してたと思います。家を出て来て、ここまで支えてくれた皆さんにはとても感謝しています。抱樸館を卒業したら自分のなりたい仕事を見つけて、自分で物事を決められるようになりたいです。

＜職員の皆さんへ＞私が10代で入ってきて、皆さんの子どものように心配してくれたり、ちよいちよい気にかけてくれて、話しかけてくれたことがすごく嬉しかったです。ありがとうございます。

スタッフより

高校にも行けず複雑な家庭環境の中で過ごした彼女は、辛い気持ちを出さずに、いつも笑顔が絶えない頑張り屋さんでした。やりたいことがあるとってパソコン研修や介護職員初任者研修を受け、退居後も資格を活かしてお仕事を頑張っています。

■ 50代の男性(2025年3月退居)

抱樸館にお世話になりました。規則正しい生活ができ、いろいろと勉強にもなりました。これからの生活は、一日でも早く自立してやっていこうと思っています。職員の方々には大変お世話になり、特に担当の方には本当にいろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

スタッフより

友人と林業に従事する予定でしたが、うまくいかず知人の飲食店を手伝うことになりました。ところがその店も閉店し、抱樸館の入居に至りました。おとなしい印象ですが、周りの人達にとても好かれており、仲の良い友人も数人出来たようです。週3日程度の仕事に従事され、転居後もまじめに勤務されています。とても綺麗好きで、部屋は常に清潔で、整理整頓が行き届いていました。

■ 50代の男性(2024年12月退居)

自分の人生において初めて生活基盤を失い、迷っているところに抱樸館をご紹介いただき、入居後も精神面、健康面でさまざまなサポートをしていただきました。本当に感謝しております。入居中、入居者のみなさんと大変親しくしていただいて、精神的にも安定し、健康面もよくなり、これからの人生を考える大事な時間を過ごせました。

スタッフより

入居後、館内のボランティア活動を積極的に参加してくれました。入居前は相談できる相手がおらず、一人で悩んだ時間が多かったと話されたことが印象に残っています。仕事に就くことができ、約6ヵ月間抱樸館福岡で生活されたのち、自立されました。退居時には、何かあれば相談します、と話されました。お仕事を継続され頑張っていると先日報告を受けました。これからも応援しています。

抱樸館福岡の アフターフォロー

抱樸館福岡では、卒業生に対して様々なサポート(アフターフォロー)を行っています。今回は今年4月からアフターフォローの相談員を担当している中村さんにお話を伺いました。

アフターフォロー業務への思い

もともと受付業務を4年ほど担当していましたが、アフターフォローの仕事に移れると聞いたときはとても嬉しかったです。受付では入居者の方に関わる範囲に限られており、卒業されてからの生活がどうなっているのか気になっていました。アフターフォローなら、入居者の方のその後を追うことができ、もっと力になればいいと感じていたので。

アフターフォローを担当してまだ3ヵ月なので、前任者の業務を引き継ぎながら勉強させてもらっています。主に病院への同行や買い物の付き添い、相談対応、定期的な訪問、バースデーコールなどを行っています。法律的な相談や就労相談などは勉強中ですが、文字を読んでも頭に入らなくて(笑)。経験を積み重ねたいと思っています。

心がけていること

「入居者の方」や「卒業生の方」と見るのではなく、周りのみなさん同様、自然体で接しているつもりです。バースデーコールでは近況や体調を伺います。話したこと、お会いしたことない方もいらっしやいますので、雑談も交え抱樸館とのつながりを感じていただけるよう心掛けています。

つながり

卒業された方同士のつながりも自然に生まれてきています。卒業生の方の近況を知れることもあるので助かりますし、遊びに来館されて、みんなで楽しそうにお話されている姿を見ると、嬉しくなりますね。抱樸館での仕事を通じて入居者の方に気づかされたり、勉強させていただいていると感じます。

アフターフォローの…

対象者

過去に抱樸館を利用されたすべての方です。現在、約1,625人の方が退居されていますが、その内、逝去された方や連絡が取れない方を除いた約800人の方が連絡を取る対象者です。

支援の内容

就労相談、居住相談、法律相談、介護保険の相談、障がい者支援からスマホの使い方まで多岐に渡ります。



中村 由美さん

2021年4月に受付事務として抱樸館福岡に入職。
2025年4月からアフターフォローの相談員を担当。
夫と高校生の息子と3人家族。
趣味はお散歩。



卒業後のつながりを作る場を取材しました



抱樸館福岡で開催「カフェさんぽみち」

入居者や卒業生の他、どなたでも利用できる開かれたカフェです。カフェでは久しぶりに顔を合わせた卒業生、利用者、職員がテーブルを囲み、和やかに談笑する姿が見られました。

毎月第2金曜日
コミュニティカフェ
「カフェさんぽみち」を
開催しています。



ファイバーリサイクル市は好評で、1枚50円からTシャツやズボンなどを購入できます



この日は卒業生「岩田さん」の歌とギター演奏がありました



ボランティアで活動されている「はんどらびんくチーム ONE!」によるハンドマッサージは大好評！

箱崎商店街の中にある「居場所カフェ 在(aru)」

この日は抱樸館の卒業生や入居者、地域の方々が訪れ、スタッフと会話を楽しみながら食事をされていました。

抱樸館入居者の一人、Aさんは「抱樸館を卒業したら箱崎に住みたいと話したら『在(aru)』に行くことを勧められ、足を運ぶようになりました。引っ越しした後の拠点になるような居場所があって、よかったと思っています」と話してくれました。

「居場所カフェ 在(aru)」(福岡市東区箱崎)は、東区に住む抱樸館卒業生や、孤独や孤立状態に陥っている方など、世代を問わず地域の多様な方の拠り所となる居場所として、2023年にオープンしました。



「在(aru)」では月に一度「きずなの日」を開催しています。



詳しくはInstagramをチェック！



最期のときまで寄り添います…

高齢の生活困窮者の方々にとって、自身の葬儀やお墓のことは大きな不安の種となっています。抱樸館では亡くなった卒業生が葬儀をするお金がない場合、NPO法人おとむらい牧師隊に依頼し、葬儀を執り行っています。



卒業生Bさんの葬儀に参列しました



葬儀では司式者の牧師から故人の略歴の紹介があり「大変ご苦勞の多い人生でした」とねぎらいの言葉がありました。抱樸館でBさんを担当していた担当者より「とても穏やかな優しい方だった」など故人の思い出が語られました。

式が終わり、出棺の前に一人ひとり柩に白い花を捧げ、手を合わせ、最後のお別れをしました。

すべての方に心のこもったおとむらいを NPO法人おとむらい牧師隊

NPO法人おとむらい牧師隊は、経済的な理由で火葬だけの葬儀(直葬)をする方々のために、無償でおとむらい活動を行っています。グリーンコープ生協ふくおか福祉活動組合員基金に申請されたことをきっかけに、抱樸館と繋がりができました。

葬儀場所は箱崎キリスト福音教会からの申し出により、無償で提供いただいています。おとむらい牧師隊による抱樸館での葬儀は多い時で年間14人、これまでに約50人の方々のお見送りをしました。

HPは
コチラ



右:おとむらい牧師隊 代表
石村さん
左:箱崎キリスト福音教会
小柳さん



「抱樸館を支える会」の会費は、子どもたちへの支援にも活かされています。

みんなの居場所

居場所作り7月 月次報告書より

グリーンコープは子どもたちや地域の皆さんが安心して過ごせる居場所づくりをしています。子どもたちが気軽に立ち寄って遊んだり、宿題をしたり自由に過ごせる場所です。おとなも一緒に過ごせます。

大分県
(別府市)

みどりちゃんのおうちベっぷ



メインはたこ焼き。プリン手作りしたもので、小さなお子さん1個ぺろりと食べるほど、大好評でした

いつも来てくれる家族連れが増え、子ども同士と一緒に遊ぶような光景が見られ、明るい声が行き交う居場所になっています。Instagramを発信しています。地域の方から、お米の寄付を頂きました。



福岡県
(福岡市東区)

名島げんきもりもりハウス

利用者が増え、夏休みに入ってから混雑しています。ボール遊びやプラバン、アイロンビーズ、プラレールなど様々に過ごしています。

中学生が、通知表を持ってきて見せてくれました。勉強を見てくれたスタッフにそれぞれ見せたかったようです。



流しそうめん
トングですくって箸で食べるルール



暑中「ベランダで食べたい」と外で食べる子どもたち



熊本県
(熊本市)

田崎げんきもりもりハウス

子ども食堂の日は、家族連れの参加が多いようです。この日のメニューはぶっかけそうめん、いなり寿司、鶏のから揚げ、コーヒー牛乳ゼリー、びん牛乳試飲でした。



SDGsのワークショップ「コーヒーかすで消臭剤作り」を行ないました



福岡県
(遠賀郡)

水巻こどものおうち

お友達から紹介されて、お子さん2人と来られたシングルマザーの方が「このような場所がとてもありがたい、早く知りたかった」と話されていました。



「べっこうあめづくり」にチャレンジ！



佐賀県
(佐賀市)

みんなのわたげさが

近隣の家族連れ、小学生や中学生がたくさん来てくれました。



毎年、美味しいと好評の「すご腕カレー甘口」です★



抱樸館北九州、福岡、熊本より「旬」の話題をお届けします。



いつも抱樸館北九州をお支えくださり、誠にありがとうございます。

互助会主催の葬儀でTさんを見送りました



友人から弔辞が読み上げられました

抱樸館北九州には、路上からの入居のほか、大半は地域生活が困難な方が安心できる場所として入居してこられます。

今回ご紹介するTさんも、車いす生活となり2018年に抱樸館に入居されました。ほかの入居者さんと交流するなど楽しく過ごしておられましたが、ここ数カ月は身体機能の低下から気分がふさぎ込み、健康面などの困難が見られていました。そのため、職員が一丸となって入院先を探し、ようやく手配がついた矢先にご逝去されました。

NPO法人抱樸が運営する卒業生同士の互助会

出発点となったのは、路上から自立した後、再びひとりぼっちにならないように、そして人生の終わりにはみんなで看取り・送りたいと考えた、当事者のみなさんがつくった「なかまの会」です

朝食に来ず、心配して様子を見に行ったスタッフが、床で倒れているTさんを発見。救急車を呼びましたが、帰ってくることは叶いませんでした。居室に残されたノートには、半身不随となった身体が思うように動かさなくなる不安感など、苦しい胸の内が記されており、Tさんの激しい拒否や暴言も内面での葛藤によるものであったことを知りました。

亡くなる前日、1年ぶりの散髪に応じてくれたTさん。記念写真を求めると、はじめはそっぽを向いていたものの、最後には少しだけ口元を緩めてくれました。対応に苦慮することもありましたが、最後に見せてくれた笑みを糧に、これからも支援にあたってまいります。

互助会・春の野外交流会が行われました

5月8日(木)新緑が眩しい高炉台公園(北九州市八幡東区)に約90名が集まりました。まずは元気いっぱいの選手宣誓。ウォーミングアップのラジオ体操のあと、お玉リレーや玉入れなどの競技を行いました。今年は「スリッパ投げ競争」が新たに競技種目に加わりました。一列に並んで、いちばん遠くまでスリッパを投げた人が優勝です。けれども、スリッパの投げ方や風向きによって、思いもよらぬ方向に飛んでいくので、大いに盛り上がりました。

抱樸館北九州のAさん(80歳)は「普段は部屋でじっとしていることが多いから、久々に外に出て、身体を動かして、とても気持ちがよい」と満面の笑みをみせてくれました。

お昼は木陰で輪になって、みんなでお弁当をいただきました。退院したおいちゃんや育休中の職員と赤ちゃんなど、久しぶりの再会を喜び合う声が聞こえました。



新種目「スリッパ投げ競争」で大盛り上がり！

会報誌の感想をお聞かせください アンケートのご協力をお願いします

会報誌10月号はいかがでしたでしょうか？
すべての項目にお答えいただく必要はございませんので、お気軽にご協力ください。

みなさまからの
ご回答を心より
お待ちしております！

アンケートは今後の誌面づくりの参考にさせていただくために、実施しています。

お寄せいただいたご意見やご感想の一部を、誌面で紹介させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

10月号
アンケート
フォーム



【お詫び】8月号アンケートフォームの不備について

8月号アンケートにつきまして、紙面に掲載した二次元コードに誤りがあり、回答が送信できない状態となっておりました。大変申し訳ございません。せっかくご協力くださろうとされた皆さまには、ご不便・ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

現在は正しく回答が送信できるように設定を変更しております。もしよろしければ、改めてご回答いただけますと大変ありがたく存じます。

皆さまから寄せていただく声は、会報誌をより良くしていくための大きな力になっています。

引き続き、会報誌へのご意見・ご感想を
ぜひお寄せください。

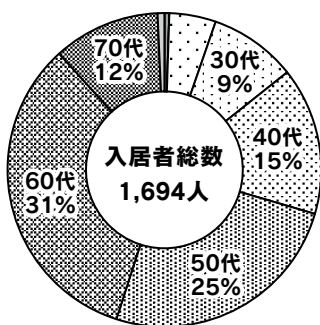
どうぞよろしくお願いいたします。



8月号
アンケートフォーム

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2025年8月末までの入居者数



	人数	割合
10代	14	0.8%
20代	101	6.0%
30代	147	8.7%
40代	261	15.4%
50代	417	24.6%
60代	528	31.2%
70代	209	12.3%
80代	17	1.0%
計	1,694	100%

2025年8月末現在の入居者

69名(定員81名) 男性64名、女性5名

2025年7～8月の新入居者数・退居者数

新入居者数27名 退居者数24名

(注:8月末までの入居者数1,694名は、2度、3度入居した人も1名と数えています)

抱樸館熊本・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員 以下の18団体が正会員です。
グリーンコープの各単協(15生協)
グリーンコープ連合会
NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員 2025年8月末の賛助会員は、以下の通り
グリーンコープの共同購入組合員 11,468名
グリーンコープの店舗組合員・一般の方 147名
企業賛助会員 97社

その他(抱樸館の所在地)

抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
抱樸館下関:新たに開設を検討中
抱樸館熊本(熊本市中央区) 2018年12月開所

抱樸館を支える会 賛助会員・企業賛助会員 募集中!

グリーンコープの
共同購入組合員の方

1300 「抱樸館を支える会」年会費

分割 1口 月250円×12回
(年間3,000円)

毎月の商品代金と一緒に250円引き落としとなります。

1299 「抱樸館を支える会」年会費

一括払い 1口 1,000円

お申し込みいただいた月の商品代金と一緒に、毎年一括で引き落としとなります。

※賛助会員(会費)は毎年自動更新となります。
二重のお申込みにご注意ください。

一般の方、グリーンコープの
店舗組合員の方

1口1,000円の賛助会費を
何口でも申込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 **01710-0-123003**

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口(30,000円)以上でお願いします。お申込みは、「抱樸館を支える会」事務局まで。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目
5番1号 社会福祉法人グリーンコープ内
☎ **092-482-1964**

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡
(電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)
〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州
(電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)
〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本
(電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522)
〒860-0811 熊本市中央区本荘